



大阪府立大学
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業
平成29年度 事業報告書

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15772

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」

大阪府立大学 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業

平成29年度 事業報告書

Research Center
for the Diversity
Research Environment



平成30年3月
大阪府立大学 研究推進機構
ダイバーシティ研究環境研究所

理事長・学長 ごあいさつ



大阪府立大学
理事長・学長

辻 洋

大阪府立大学の理念は「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点」であり、「多様」「融合」「国際」という視点を大切にしています。その「多様」という視点を展開する中で、異なる価値観や経験・背景をもつ多様な人材が集い、活躍できる環境を整えるため、女性研究者支援に取り組んでいます。

本学では教員の女性比率について、「新規採用における女性教員比率30%」、「平成32年度末における女性教員比率21%」、「女性教授ゼロの部局をなくす」、「上位職（教授・准教授・講師）における女性比率23%」、という4つの数値目標を掲げています。これらの目標を全学で協力して達成するために、昨年度（平成28年度）から、すべての研究科（工学・生命環境科学・理学系・

経済学・人間社会システム科学・看護学・総合リハビリテーション学の7研究科）と全学の共通教育を担う高等教育推進機構が、各部局における女性教員の採用・昇任・在籍比率についての人事計画と研究環境整備計画を立てています。この計画を立てるにあたっては、理事長として各部局長に、女性研究者の積極的な採用・昇任を検討するよう依頼しています。各研究科・機構はこれに応じて、女性限定公募をはじめ、女性の積極的な採用や登用を心がけてくれています。

その成果として、昨年度（平成28年度）の新規採用における女性比率は、目標（30%）を大きく上回る47%となり、上位となった3部局（生命環境科学・経済学・総合リハビリテーション学研究科）に「女性研究者環境整備費」を給付しました。そのうち総合リハビリテーション学研究科では早速、羽曳野キャンパスに、おむつ替えシートがついた多目的トイレを整備し、子育てを応援するキャンパスづくりに取り組んでいます。

また、本学の女性研究者が学内外で行っている研究や活動を少しでも多くの人に伝えたいという思いから、今年、「大阪府立大学ロールモデル集 研究紹介」を発行しました。今後はこのロールモデル集や、研究紹介セミナーなどを通して、女性研究者の活躍の場を地域社会へ広げていきたいと考えています。

大阪府立大学は「垣根のない大学」です。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」を契機として、教員と職員がともに協力し合って進めてきた研究環境の整備を、より一層発展させていきます。今後とも、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

理事・副学長 ごあいさつ



大阪府立大学
理事（教育研究担当）
副学長
（教育研究・男女共同参画担当）
研究推進本部長
学術情報センター長

石井 実

大阪府立大学が平成27年度に採択され、取り組んできた文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」も、早いもので6年のプロジェクト期間の前半を終え、折り返し地点に到達しました。

本事業は、事業開始以来、学内外からの多大なご協力のもと順調に進捗し、外部評価委員会からは、昨年度（平成28年度）の事業に対してS評価と勇気をいただきました。また、平成29年6月には文部科学省に報告書を提出し、11月にそれにもとづく中間評価のヒアリングを辻理事長、真嶋研究所長とともに受けました。結果の公表はまだですが、これまでの本学の取り組みが高く評価されることを期待しています。

ヒアリング直後の11月17日、本学はこれまでの本事業の成果と課題をテーマにした中間総括シンポジウムを開催しました。このシンポジウムの開催にあたっては、学内に教職員協働の実

行委員会を立ち上げ、プログラムづくりや講師の選定など企画・運営に関わっていただきました。開催当日、会場内では、学内の関係11部局および大阪府立大学工業高等専門学校が、女性活躍支援およびダイバーシティ環境の増進に向けた取り組みについてポスター発表を行いました。また、パネル討論では本学の全研究科と高等教育推進機構の部局長が登壇して、各部局の成果と今後の課題について熱く語りました。このシンポジウムには学内外から多くの参加者があり、本学が全学をあげてこの事業の推進に取り組んでいることを伝えることができたと考えています。

本事業の事務局であるダイバーシティ研究環境研究所は、女性研究者支援センターと共に、本学における女性研究者支援プログラムの2つのエンジンとして、女性研究者のスキルアップおよびキャリアアップ支援を行ってきました。私は、この事業の担当理事・副学長として約2ヶ月に1度、この2つの事務局関係者とミーティングを行っています。そこでの情報交換は、各部局の女性研究者の状況を把握し、課題を見つけて必要な支援を検討するなど、本学のダイバーシティ研究環境の増進に重要な役割を果たしてきました。

この事業により、本学は女性研究者の採用・昇任を促進し、その研究活動をサポートしてきました。今後は、本事業で育った本学の女性研究者が、学内外の研究者や組織と連携して、より先進的な研究や大型の研究、産学官連携研究などにチャレンジし、「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点」の理念を掲げる本学の研究活動を支えていただくことを期待しています。この事業はまだまだ続きます。これまで本事業にご理解とご協力をいただいた学内外の皆様、引き続きよろしくお願いいたします。

事業総括

一起動・軌道から機動へ

大阪府立大学
ダイバーシティ研究環境研究所 所長
人間社会システム科学研究科 教授
現代システム科学域 教授
学長特別補佐



真嶋 由貴恵

本学のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（事業期間平成27年度～32年度）では2つの大きな目的を掲げている。

一つは、女性研究者の在籍比率の増加（女性教授がいない部局をなくすことを含む）であり、辻理事長・学長はじめ、石井理事・副学長を委員長とする人事委員会のリーダーシップのもと、全研究科と高等教育推進機構に対して、人事計画と環境整備計画の策定を依頼している。これにより、部局ごとに現状と課題が把握され、女性研究者比率の増加に寄与するような計画が提出されている。2年目となる今年度には、昨年（平成28年度）上位であった3部局（総合リハビリテーション研究科、生命環境科学研究科、経済学研究科）に対して、大学自主経費によるインセンティブ「女性研究者研究環境整備費」が付与された。

もう一つの目的は、女性研究者が研究リーダーや上位職として必要な研究力の向上を支援することである。ダイバーシティ研究環境研究所（以下、「研究所」という。）では、以下、Ⅰ. 研究環境基盤整備、Ⅱ. スキルアップセミナー、Ⅲ. RESPECT*（研究実践力強化支援プログラム）の3種類を実施している。

その結果、特筆すべき点として、今年度の文部科学省科学研究費の女性教員採択率は32.4%（全国平均25.3%、男性25.1%女性26.0%）となり、本事業の各支援の成果が見られた。また今年度初めに開催された外部評価委員会では平成28年度の事業において、総合的にS評価を受けた。

そこで、事業を“起動”した27年度、“軌道”にのせた28年度に続き、今年度臨機応変かつ緻密に実施できる“機動”を目的にして計画した事業について、以下に総括する。

※ RESPECT: Research Support Program for Enhancing Capability and Technique

Ⅰ. 研究環境基盤整備

女性教員の研究ニーズへの充足を支援し、自律して研究を推進できる環境を整備することを目的としている。そのため、ライフイベントのある女性教員への研究支援員の配置に加え、女性教員への研究力向上に向けたヒアリングを継続して実施した。このヒアリングは研究所コーディネーターと、ダイバーシティ事業担当URA（本学の地域連携研究機構URAセンターと連携）3名で担当している。対象者は、平成29年度に本学に着任した准教授以下の女性研究者、および在籍中の准教授以下の女性研究者併せて8名であった。これにより、個別のURA担当者がいなかった理工系部局の女性研究者や、キャンパスが離れている医療系部局（看護学・総合リハビリテーション学）、および文系部局等の女性研究者の具体的、特徴的なニーズや課題を聞くことができ、より丁寧な個別支援へとつながっている。また、ヒアリングの際には、本事業の紹介とともに、Ⅱ. スキルアップセミナーや、Ⅲ. RESPECTへの参加、研究助成金への応募を促すことができ、事業への理解やセミナー等への参加率向上、外部資金獲得への意識の向上につながった。

次に、個々の研究活動状況の自己診断支援を目的に運用しているパーソナル・ポートフォリオは、従来の教員業績評価システムを活かして内省を促し、将来的なライフプランも見据えた

研究計画、および自身のキャリアパス設計を可能にしている。

さらに、平成28年度に実施したメンター配置やメンターカフェ、大阪府内の他研究機関との交流会を通して、女性研究者に積極的に働きかけることにより、これまで、特に女性が少ない部局では孤立しがちであった女性研究者が、自律性・自発性を発揮できるように見守るとともに、個々様々な悩みを抱えた時に気軽に相談でき、時には新たな視座を与えられるような支援環境の維持に努めている。

Ⅱ. スキルアップセミナー

スキルアップセミナーは、外部資金獲得、英語論文作成、マネジメント、プレゼンテーション力向上の4種類であり、計7回開催し、のべ84人の参加があった。2種類以上のセミナーに参加することにより、下記Ⅲ. RESPECTへの申請資格を得ることができる。なお、スキルアップセミナーのうち外部資金獲得セミナーと英語論文作成セミナーでは、希望者には個別校閲・校正を行っており、これものべ19人が利用した。プレゼンテーション力向上セミナーは、プレゼンテーション力向上を目指し、中百舌鳥・羽曳野・りんくうの各キャンパスで実施した。また、マネジメントセミナーでは、研究室や共同研究チームなどの組織におけるマネジメント力やサポート力の向上を目指している。実施後に行ったアンケートでは参加者から有益な意見が得られており、これらの意見を参考に、今後も本学の女性研究者のニーズに合ったより効果的なものとなるよう改善していきたい。

Ⅲ. RESPECT（研究実践力強化支援プログラム）

RESPECTはスキルアップセミナーの上位研修プログラムとして位置づけている。本学の女性研究者に競争的インセンティブとして各種支援を行うことによって、女性研究者が研究グループのリーダーとなる活動を促進することを目的としている。第2回目の募集には8件の申請があった。

審査委員会は石井理事・副学長を審査委員長として、審査委員を女性研究者支援事業運営委員会から選出して構成した。審査は、各申請者からのプレゼンテーションによる学内公開で実施した。その結果、5件を採択した（うち3件は大学自主経費による）。

またRESPECTとは別に平成28年度から実施されている大学自主経費による研究費インセンティブ「女性研究者支援事業」には、6人の女性研究者が採択された。このことから、本学の女性研究者の支援が補助金事業にとどまらず、本学全体としても女性研究者活躍推進への意識の向上がなされ充実してきたと自負している。

その他含め、平成29年度の事業計画はすべて達成できた。平成30年度にはこれまで本事業で推進してきた研究環境整備の維持と女性研究者の研究力を発揮できる活躍の場の拡大、学外への情報発信の強化など、組織体制を見直した上で関係諸機関と協力し、効率的な事業運営をめざしていきたい。

平成29年度 事業報告書

目次

理事長・学長ごあいさつ 大阪府立大学 理事長・学長 辻 洋	2
理事・副学長ごあいさつ 大阪府立大学 理事（教育研究担当）・副学長 石井 実	2
事業総括 大阪府立大学 研究推進機構 ダイバーシティ研究環境研究所長 真嶋 由貴恵	3

事業概要と今年度の計画	
1. 事業概要	5
2. 今年度の実施計画	7

事業実施報告	
I. ダイバーシティ研究環境基盤整備	9
II. スキルアップ支援プログラム	22
III. RESPECT(研究実践力強化支援プログラム)	25
その他	27

事業概要と今年度の計画

1 事業概要

実施予定期間：平成27年度～平成32年度

総括責任者：辻 洋（公立大学法人大阪府立大学 理事長）

（1）事業の目的

異分野融合・共同研究の女性研究リーダーへの支援、女性上位職の両立支援など、産学官連携に強みを持つ本学の女性研究リーダー育成のための取組を推進する。

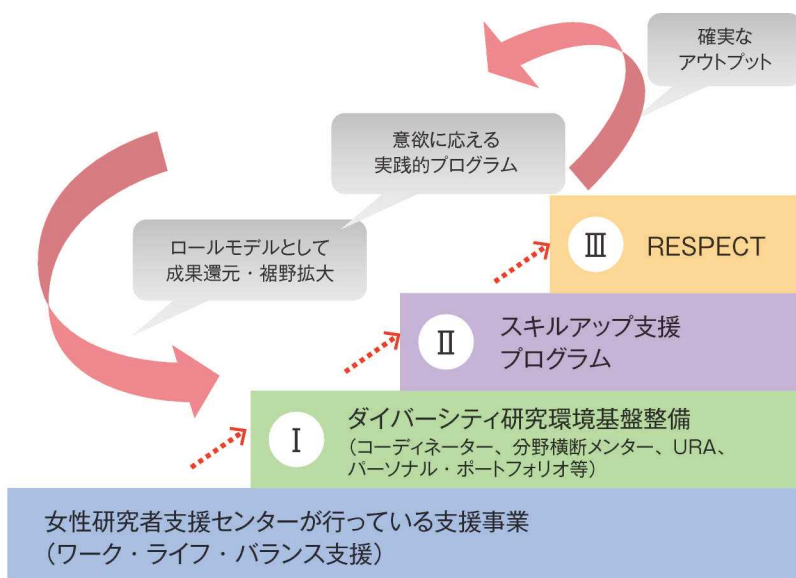
（2）目標と行動計画

第3期（平成29～34年度）中期計画と中期目標に目標・行動計画を位置づける。

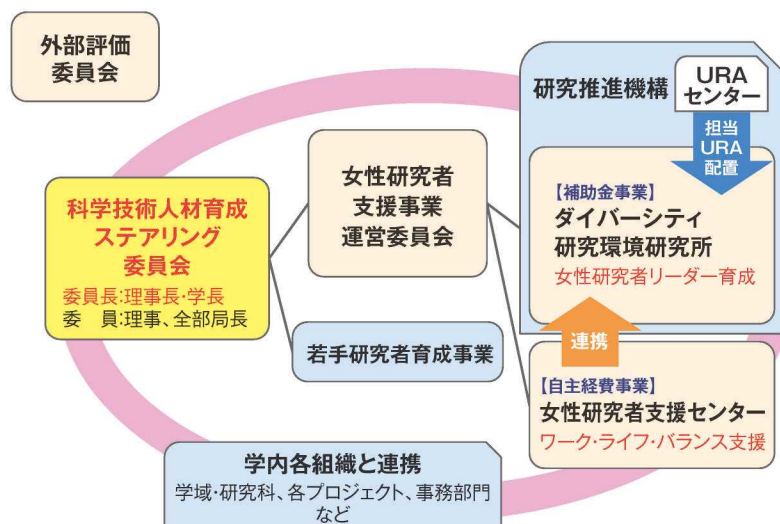
- 平成28年度以後、新規採用における女性教員比率30%
- 平成32年度に、女性教員比率21%
- 女性教授ゼロの部局ゼロ
- 上位職（教授・准教授・講師）における女性比率23%
- 上位職（副学長・理事・学長補佐）における女性比率25%

（3）取組の概要

- 学内にダイバーシティ研究環境研究所を設立し、女性研究者リーダーの育成と上位職に就くための支援を行う。
- 女性比率の数値目標達成のための計画を部局ごとに取り組み、高成果の部局にインセンティブを付与して支援する。
- 若手女性研究者の支援として、パーソナル・ポートフォリオ（上位職へのロードマップを含む）の活用と研究力強化プログラムを実施する。



(4) 実施体制



外部評価委員会 委員名簿（平成30年3月現在） *委員長

氏名	所属・役職
相馬 芳枝*	国立研究開発法人産業技術総合研究所・名誉リサーチャー
工藤眞由美	国立大学法人大阪大学・理事・副学長
時岡禎一郎	一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団・評議員
黒田 一未	堺市市民人権局 男女共同参画推進課長
花嶋 温子	大阪産業大学 人間環境学部生活環境学科・講師

ステアリング委員会 委員名簿（平成30年3月現在） *委員長

氏名	職名（担当部局）
辻 洋*	理事長、国際・社会連携推進本部長
石井 実	理事（教育研究担当）、学術情報センター長、研究推進本部長
神谷 雅之	理事（総務調整担当）
藤原 徳一	理事（府大高専担当）
大塚 耕司	現代システム科学域長
横山 良平	工学域長
竹内 正吉	生命環境科学域長
奥田 邦晴	地域保健学域長、総合リハビリテーション学研究科長
辰巳砂昌弘	工学研究科長
川口 剛司	生命環境科学研究科長
溝口 幸司	理学系研究科長
近藤 真司	経済学研究科長
牧岡 省吾	人間社会システム科学研究科長
上野 昌江	看護学研究科長
高橋 哲也	教育推進本部長
山崎 正純	高等教育推進機構長
山手 丈至	研究推進機構長
吉田 敦彦	学生センター長
柳 嘉夫	理事長室長

女性研究者支援事業運営委員会 委員名簿（平成30年3月現在）

氏名	部局（職名）
真嶋由貴恵	人間社会システム科学研究科（教授）
森澤 和子	工学研究科（教授）
石田 武和	工学研究科（教授）「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」PO
小笠原紀行	工学研究科（助教）
三宅 眞実	生命環境科学研究科（教授）
田島 朋子	生命環境科学研究科（准教授）
山口 夕	生命環境科学研究科（准教授）
細越 裕子	理学系研究科（教授）
竹田 恵美	理学系研究科（准教授）
岡田 光代	経済学研究科（准教授）
村田 京子	人間社会システム科学研究科（教授）女性学研究センター
遠藤 崇浩	人間社会システム科学研究科（准教授）
中山美由紀	看護学研究科（教授）
大関 知子	総合リハビリテーション学研究科（教授）
高平 嘉二	総務部人事課（課長）

事務局（平成30年3月現在）

氏名	部門・役職名
石田 耕造	総務部 総合企画課 総合企画課長
原田 浩	総務部 総合企画課 課長補佐
玉城 舞	総務部 総合企画課 主査
藤原 哲	総務部 総合企画課 主査
巽 真理子	ダイバーシティ研究環境研究所 特認准教授
白石 恵美	ダイバーシティ研究環境研究所
中野 恭子	ダイバーシティ研究環境研究所
森元 敏恵	ダイバーシティ研究環境研究所
萩原 歩	ダイバーシティ研究環境研究所

2 今年度の実施計画

(1) 女性教員・研究者数、比率の増加のための取組と実施体制の構築

- 人事委員会による数値目標設定項目（新規採用における女性比率の維持、女性教員比率・上位職（教授・准教授・講師）における女性比率・上位職（副学長・理事・学長補佐）における女性比率の向上、女性教授のいない部局ゼロ）に基づいた、各部局の女性研究者採用比率を確保する人事計画に対し、成果の高い部局に女性研究者研究環境整備費を配分する。
- ダイバーシティ研究環境研究所（コーディネーター1人・事務補助職員3人・本事業担当URA 1人を配置）を、人材育成ステアリング委員会の統括のもと、全学委員会である女性研究者支援事業運営委員会が運営する。女性上位職への両立支援や、女性研究者（博士研究員・特認教員も含む）への両立・復帰支援を行う。
- 外部評価委員会（委員長を含め5人）を開催し、今後の事業実施のためのアドバイスをいただく。

(2) ダイバーシティ研究環境研究所による女性研究者の研究力強化の取組

- プロジェクトの成果を学内外に発信するため、中間総括シンポジウムを開催する。
- コーディネーターを中心に、女性研究者の研究力強化のため、下記Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを実施する。
- 年度末に報告書を作成して学内外の関係者に配布する。

I. ダイバーシティ研究環境基盤整備

女性若手研究者（助教および新規採用准教授以下）に対して、分野横断的にメンターをつける。コーディネーターとメンター、URAが連携し、各研究者のパーソナル・ポートフォリオ（昇任に向けてのロードマップを含む）を活用して、研究力向上の支援を行う。また、コーディネーターはパーソナル・ポートフォリオを研究環境整備と上位職登用に資するよう分析し活用するためのデータ整備を行う。

II. スキルアップ支援プログラム

女性研究者を対象として、スキル向上に資するプログラム（下記①～④）を実施する。新規採用の若手女性研究者は必修とする。

①外部資金獲得セミナー・ワークショップ

科研費、CREST、さきがけや、企業等からの研究費獲得のためのスキルアップを目指す。外部資金獲得の経験豊富な講師による講演に加えて、参加者への個別相談会や申請書類の校閲サポートを行う。

②英語論文作成セミナー・ワークショップ

研究成果を海外へ発信する力をつけることを目指す。少人数のワークショップや英語論文の校閲費サポートを行う。

③プレゼンテーション力向上セミナー・ワークショップ

研究のあらゆる状況で必須となるプレゼンテーション力などのセミナーとワークショップを行う。

④マネジメントセミナー・ワークショップ

大型外部資金等の研究チームのリーダーや研究室・部局を運営する上位職の養成を目指し、マネジメント（研究倫理・危機管理を含む）についてのセミナーを開催する。

III. RESPECT

（女性研究者研究実践力強化支援プログラム Research Support Program for Enhancing Capability and Techniques）

女性研究リーダーの育成のため、スキルアップ支援プログラムの上位研修プログラムとしてRESPECTを実践する。女性研究者がリーダーシップを発揮し、研究グループを形成して研究活動を推進する取組に対して、インセンティブを付与することで、研究の加速を支援する。インセンティブを付与する者は、公開審査会にて選出する。

(3) 異分野研究領域を融合した研究の促進

- 異分野融合研究への女性研究者の参画を活性化させるため、学内外の様々な研究分野の研究者・技術者との交流の機会の提供、及び女性研究者を研究代表者とした研究チームの組織化を支援する。
- ダイバーシティ研究環境研究所を中心に、ダイバーシティ研究環境実現のため、教職員のワーク・ライフ・バランスの現状とニーズについての調査研究を行う。

(4) 理系女子人材の発掘とキャリア支援

- 校友会（同窓会）メーリングリストを通して、理系女性卒業生に学位取得や共同研究、セミナー・交流会への参加等、研究者としてのキャリア支援や交流を呼びかける。そのための相談をダイバーシティ研究環境研究所で受け付ける。
- 女性研究者支援センターの事業である理系女子大学院生チームIRIS（アイリス）のOG会を活用して、在籍の女子学生へのロールモデルとしての交流や、企業や研究機関との交流に取組む。

(5) 公立大学としての地域連携力の活用

- 公立大学として大阪府地域で女性研究者支援の先鞭をつけたことをふまえ、交流の深い公設試験研究機関や企業、他大学、団体等と連携し、意識啓発や交流会への参加、学位取得等を促し、研究力強化とキャリアパス支援の取組を発展させる。

(6) コーディネーターのキャリアパスへの配慮

- ダイバーシティ研究環境研究所のコーディネーターを、週1日を博士研究員として自主経費で雇用することにより、研究者としてのキャリアパスを支援する。

事業実施報告

I. ダイバーシティ研究環境基盤整備

事業一覧 (時系列)

平成29年	4月1日	●研究支援員配置開始 ●復帰支援研究費の支給
	4月3日～14日	研究支援員派遣申請募集（4月着任者等対象）
	4月17日	第1回担当副学長とのランチ・ミーティング
	5月1日	●広報担当職員 雇用開始
	5月9日	現代システム科学域の専門科目「情報とサステナビリティ」にて事業紹介
	5月10日	研究支援員制度審査会 開催
	5月12日	女性研究者研究環境整備費制度 ●平成28年度結果公表 ●平成29年度計画提出依頼
	5月24日	第1回運営委員会 開催
	6月7日	女性研究者環境整備費付与
	6月14日・16日	部局長ヒアリング実施：6研究科と高等教育推進機構
	6月15日	第2回担当副学長とのランチ・ミーティング
	6月21日	外部評価委員会 開催：総合評価S
	6月26日	第1回中間総括シンポジウム実行委員会 開催
	6月30日	各部局より、女性研究者研究環境整備費制度に係る人事・環境整備計画を提出
	7月3日	部局長ヒアリング実施：工学研究科
	7月6日・8月1日・9月26日	中間総括シンポジウム実行委員会 開催
	7月3日～28日	研究支援員 追加募集
	7月～	女性教員への研究環境ヒアリング
	8月29日	第3回担当副学長とのランチ・ミーティング
	10月2日	第2回運営委員会 開催
	10月10日	第1回ステアリング委員会 開催
	10月19日	メンター・カフェ（女性研究者支援センターと共催）【中百舌鳥キャンパス】
	11月2日	中間総括シンポジウム実行委員会 開催
11月13日	第4回担当副学長とのランチ・ミーティング	
11月15日～12月15日	研究支援員派遣申請募集（平成30年度分）	
11月17日	中間総括シンポジウム 開催	
12月25日	メンター・カフェ（女性研究者支援センターと共催）【羽曳野キャンパス】	
平成30年	1月12日・24日	H30年度分研究支援員審査会 開催
	1月24日	第5回担当副学長とのランチ・ミーティング
	2月9日	女性研究者 研究紹介セミナー 開催
	2月15日	ロゴデザイン発表
	3月15日	第3回運営委員会 開催
3月20日	第2回ステアリング委員会 開催	

事業ごとのまとめ

(1) ダイバーシティ研究環境研究所の運営

本事業の実施部門として、ダイバーシティ研究環境研究所を運営し、本事業の推進と進捗管理を行った（p.7 事務局名簿参照）。

(2) 外部評価委員会

●平成29年6月21日（中百舌鳥キャンパス）（p.6 委員名簿参照）

平成28年度の事業評価のため委員会を招集し、評価していただいた。

※総合評価 S（評価の詳細は、p.10参照）

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」大阪府立大学外部評価委員会
平成28年度事業 総評

お名前	外部評価委員会委員長 相馬芳枝
評価記入年月日	平成29年 7 月 5 日

下記の太枠内に、ご記入ください。

・「評価」欄には、下記の評価基準によりご記入ください。

S	計画を上回って実施できている。
A	計画どおり実施できている。
B	計画どおり実施できていないが、一部順調な取り組みもみられる。
C	計画どおり実施できていない。

・「コメント」欄には、各項目についてのコメントがあれば、ご記入ください。

項目	評価	コメント
取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率	S	上位職比率、在職比率、採用比率すべてにおいて、目標を達成することができた。特に、採用比率では、目標を大幅に上回り、准教授、講師の採用数が多かったことは、特筆すべき実績である。今後、女性教授ゼロの部局をなくするための取り組みに、さらに努力されたい。
(1) 女性教員・研究者数、比率の増加のための取組と実施体制の構築	S	計画どおりに実施でき、女性教員数が少ない理系部局で女性限定公募が実現した。女性限定公募をした勇気を讃えたい。また、女性教員の採用、昇進に実績のあった3部局に対し、自主経費で女性研究者研究環境整備費の配分が決定したことは、特筆すべき実績である。
(2) ダイバーシティ研究環境研究所による女性研究者の研究力強化の取組	S	コーディネーターの役割の明示化、メンターの配置は大きな前進である。スキルアップ支援プログラムは、内容、開催場所ともによく工夫されており、開催回数は目標を上回っていた。RESPECT の募集と審査を行い、第1回審査で3件、第2回審査で5件を採択し、自主経費を投入して女性研究者のリーダー育成に尽力していることは高く評価できる。本補助事業終了後の展開を見据えた布石として意義深い。

項目	評価	コメント
(3)異分野研究領域を融合した研究の促進	S	学内インセンティブ制度の中に、「女性研究者支援事業」を新設して7名を採択し、「異分野融合研究分野」に女性枠を新設して1名を採択することにより、異分野融合研究への女性研究者の参画を活性化したことは、高く評価できる。今後は研究成果を検証し、事業の周知と一層の活性化を図られたい。
(4)理系女子人材の発掘とキャリア支援	A	きめ細かな取り組みが実施できている。 IRIS-OG会と現役女子学生との交流会の応募者が、1.5倍に増えたのは素晴らしい。今後も折にふれて、OG会員にロールモデルとして活動してもらえる企画を実施されたい。
(5)公立大学としての地域連携力の活用	S	地域研究機関との交流を通じて、共同研究につなげることができたことは、「計画を上回る成果」として評価できる。 欲をいえば、このような専門機関との連携と並行して、一般府民への啓発も必要ではないか。例えば、地域の男女共同参画センター、文化・生涯学習施設との共同事業（講師派遣など）で大学のプレゼンス向上が期待できる。
(6)コーディネーターのキャリアパスへの配慮	S	コーディネーターのキャリアパスを配慮して博士研究員として自主経費で雇用した結果、特任准教授に昇進させたことは、キャリアパス支援にとどまらない意義がある。この種の事業では、専門性の高い人材を専従者として配置できるか否かが成否のカギを握っているからである。この取り組みが、将来にわたって学内の各種プロジェクトのモデルケースとなるように、成果が上るよう期待する。
総合評価	S	女性教員の採用比率が目標値を上回り、特に准教授、講師の採用数が多かった。女性教員数が少ない理系部局で女性限定公募が実現した。女性教員の採用、昇進に実績のあった3部局に対し、自主経費で女性研究者研究環境整備費を配分した。異分野研究を融合した研究を促進するために、「女性研究者支援事業」を新設して7名を採択し、さらに女性枠を新設して1名を採択した。これらは、大学の真剣さの現われとして高く評価される。今後、女性教授ゼロの部局をゼロにすること、および上位職女性教員増加のために一層の努力をしていただきたい。

(3) 科学技術人材育成ステアリング委員会

本事業を全学的な取り組みとして進めるため、理事長を委員長とし、「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」、「産業牽引型ドクター育成プログラム」、「地域・産業牽引型研究リーダー養成プログラム」、「地域産学官連携型持続的イノベーション・エコシステム拠点」と共同で、「科学技術人材育成ステアリング委員会」を2回開催した（p.6 委員名簿参照）。

委員会開催の他にも必要に応じて、役員連絡会や部局長連絡会議などを通じて、また部局長ヒアリングなどで個別に、事業についての協力依頼・相談・報告等を行った。

①第1回（平成29年10月10日 中百舌鳥キャンパス）

- ▶平成29年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」進捗状況について

②第2回（平成30年3月20日 中百舌鳥キャンパス）

- ▶ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの平成29年度事業実績報告と、中間評価結果について
- ▶女性研究者支援プログラムの平成29年度事業実績報告及び平成30年度計画について

(4) 女性研究者支援事業運営委員会

事業を円滑に進めるため、女性研究者支援センターと共同で、女性研究者支援事業運営委員会を開催した（p.6 委員名簿参照）。

①第1回（平成29年5月24日 中百舌鳥キャンパス）

- ▶平成29年度 運営委員ワーキング・グループと役割分担について
- ▶平成28年度 研究支援員成果報告
- ▶他機関主催のイベントへの参加について
- ▶平成28年度事業 実績報告
- ▶女性研究者研究環境整備費制度 平成28年度結果報告
- ▶RESPECT 実施結果報告
- ▶中間総括シンポジウム実行委員会について
- ▶平成29年度 事業計画および予算案について
- ▶研究支援員の追加申請募集について

②第2回（平成29年10月2日 中百舌鳥キャンパス）

- ▶平成29年度 研究支援員配置状況報告
- ▶平成28年度事業 外部評価報告
- ▶平成29年度事業 中間報告
- ▶中間評価について
- ▶平成30年度 研究支援員派遣申請募集について
- ▶平成29年度 事業予定案および経費計画について
- ▶平成30年度 女性研究者 研究実践力強化支援プログラム（RESPECT）募集について

③第3回（平成30年3月15日 中百舌鳥キャンパス）

- ▶平成30年度 研究支援員配置予定報告
- ▶平成29年度事業 実績報告
- ▶中間報告結果
- ▶平成30年度 運営委員について

(5) 女性研究者支援事業ランチ・ミーティング

本事業および女性研究者支援事業を全学的に促進するため、2ヶ月に1回程度、教育研究・男女共同参画担当の石井理事・副学長とランチ・ミーティングを行った。ミーティングでは本事業の進捗状況などの情報共有の他、部局単位の人事計画などについても話し合った。

(6) 部局インセンティブ制度「女性研究者研究環境整備費制度」の実施

年度毎に女性教員の採用・昇任・退職の結果を点数化し、その点数の上位3部局に対し、翌年度に女性研究者研究環境整備費（100万円）を付与する。

平成28年度の実績により、下記3研究科に女性研究者研究環境整備費を付与した。

平成28年度 実績

- 第一位 経済学研究科
- 第二位 総合リハビリテーション学研究科
- 第三位 生命環境科学研究科

また、理事長より各部局長（7研究科長（工学・生命環境科学・理学系・経済学・人間社会システム科学・看護学・総合リハビリテーション学）と高等教育推進機構長）へ、女性研究者採用比率や女性研究者の昇進などについての人事計画、および男性も含めたワーク・ライフ・バランスのための環境整備計画の策定を依頼し、平成29年6月末までに提出された。

平成29年度の実績により、目標達成度の高い部局に女性研究者研究環境整備費を、平成30年度初めに付与する予定である。

- 平成29年5月12日 平成28年度結果発表と平成29年度計画提出依頼
- 6月7日 環境整備費付与（平成28年度実績分）
- 6月14・16日、7月3日 部局長ヒアリング実施
- 6月30日 各部局より、部門別人事・環境整備計画を提出

SNAP!

総合リハビリテーション学研究科では、女性研究環境整備費を使って、羽曳野キャンパスに、おむつ替えシートがついた多目的トイレを整備し、子育てを応援するキャンパスづくりに取り組んでいます。



(7) 女性限定公募の実施

下記4件の教員公募を女性限定で実施した。

公募機関	研究科（専攻／分野）	募集職階	採用開始予定
平成29年7月10日～9月15日	工学研究科 （電気情報システム工学分野）	助教 （テニュアトラック助教）	2018年4月1日
平成29年7月14日～9月15日	工学研究科 （量子放射線工学分野）	助教 （テニュアトラック助教）	2019年4月1日
平成29年8月3日～10月2日	生命環境科学研究科 （応用生命科学専攻）	准教授	2018年4月1日
平成29年8月7日～9月15日	人間社会システム科学研究科 （人間社会学専攻）	准教授または講師	2018年4月1日

(8) 研究支援員の配置

ライフイベント（妊娠・出産・育児・介護）によって研究時間の確保が難しい女性研究者に対して、下記のとおり、研究支援員を配置した。

平成29年度

1) 対象

次の①～③の要件の全てに該当する女性研究者

- ①大阪府立大学に雇用されている女性研究者（博士研究員を含む）
- ②妊娠・出産・育児（末子が小学校6年生以下）又は介護によって研究時間を制限される者
- ③下記のいずれかに該当する者

1. 上位職両立支援	職位が講師以上の専任教員（任期付教員を含む）。
2. ライフイベント 復帰・両立支援	平成26年4月1日から現在までに、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した博士研究員・特認教員および専任教員（任期付教員を含む）。

2) 募集

- ①平成28年11月9日（水）～12月16日（金）
- ②平成29年4月3日（月）～4月14日（金）
- ③平成29年7月3日（月）～7月28日（金）

3) 審査会

- ①平成29年1月12日（木）・23日（月）
- ②平成29年5月10日（水）・18日（木）～24日（水）
- ③平成29年8月10日（木）

4) 平成29年度 配置状況（全キャンパス（中百舌鳥・羽曳野・りんくう）に配置）

研究科・機構	配置先教員数	研究支援員数	配置時間数（週）
工学	5	11	66
生命環境科学	2	2	8
理学系	2	4	27
経済学	2	2	19
人間社会システム科学	3	4	34
看護学	9	13	71
総合リハビリテーション学	4	5	36
高等教育推進機構	1	1	3
研究推進機構	1	1	12
合計	29	43	276

平均（1研究者あたり）9.5時間/週

研究支援員利用者の声

- 調査研究では、データ入力に時間を要しますが、その部分を支援いただいたことで、分析、論文作成に時間をとることができ、研究を進めることができました。
（総合リハビリテーション学研究科 講師）
- 自分でなくてもできるが、自分でせざるを得なかったことの一部を研究支援員さんに手伝っていただいたことで、より本質的なことをすることができました。
（工学研究科 助教）
- 保育園の送り迎えなど時間的な制限が多く、研究も教育も中断せざるを得ないことが多かったが、研究支援員の方に日中に業務をフォローしてもらうことで、まとまった時間を確保することが可能になり状況が改善されました。
（総合リハビリテーション学研究科 准教授）
- 誤字脱字のチェックや入力ミスなど、一人で作業していく中では気付かなかったことも度々指摘していただき、多くの方の力をお借りして仕事を進めていくことの重要さも実感しています。
（看護学研究科 准教授）
- 教務と経理を中心に教育と研究に関わる事務作業を幅広く支援していただきました。充実した後方支援のおかげで研究に取り組める時間が格段に増え、大変助かりました。
（高等教育推進機構 准教授）
- すぐ連絡ができる研究支援員の方に作業をフォローしていただいたおかげで、子育て中でも研究をおおむね計画通りに進めることができました。（経済学研究科 准教授）
- 妊娠中と出産後の復帰直後から使っています。能率よく仕事をする必要があるので、研究支援員のサポートは大変ありがたいです。
（工学研究科 准教授）
- 今年度は産休期間とプロジェクトの継続申請が重なりました。産後間もない状態で書類を仕上げる必要がありましたが、研究支援員の方の協力で完成させることができ、とても助かりました。
（工学研究科 助教）
- 植物工場の栽培管理や学生実験の準備や会計事務などをサポートいただいたお陰で、研究に割り振る時間を確保することができました。
（生命環境科学研究科 准教授）
- 保育園の送迎や病気等で時間が制約される状況でも、研究支援員が業務の一部を担ってくれることで効率良く研究を進めることができ、物理的にも心理的にも助けてもらった。
（総合リハビリテーション学研究科）
- 家事育児に加え、教科書や論文の執筆と学会報告準備、相当数の院生を抱える等で体力的限界にあったなか、文献の複写・整理などを支援員さんがお手伝いくださり、心身の余裕ができ、講演等を引き受けることができた。
（経済学研究科 准教授）
- 物品購入に伴う業者連絡や出張の旅費申請、資料の印刷等を依頼させていただいております。今後ともよろしく願います。
（看護学研究科 講師）

平成30年度

1) 対象

次の①～②の要件に該当する者

- ①大阪府立大学に雇用されている専任教員（男女とも、任期付教員を含む）
- ②妊娠・出産・育児（末子が中学3年生以下）又は介護によって研究時間を制限される者

2) 募集

平成29年11月15日（水）～12月15日（金）

※平成30年4月2日（月）～4月13日（金）にも募集予定

3) 審査会

平成30年1月12日（金）・24日（水）

(9) 復帰支援研究費の支給

上記（8）で研究支援員を配置した研究者のうち、「ライフイベント復帰・両立支援」の支援対象となった9名に対して、復帰支援研究費を支給した。

(10) 女性研究者の研究力向上にむけた個別ヒアリング

女性研究者の研究力向上にむけた個人支援の体制を整えるため、研究推進機構 URA センター（以下、「URA センター」という。）のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業担当 URA（以下、「ダイバーシティ担当 URA」という。）と、ダイバーシティ研究環境研究所長およびコーディネーターの3名で、8名の女性教員に対してヒアリングを行い、女性研究者のニーズや URA・メンター等の支援体制の確認を行った。

ヒアリングの結果、研究支援が必要な教員にはダイバーシティ研から研究支援員の利用申請を勧め、共同研究を希望する教員には URA が企業とのマッチング・イベントの参加案内をするなど、各教員のニーズに合わせた個人支援体制を整えることができた。

(11) パーソナル・ポートフォリオの作成と実施

平成29年2月より研究支援員を利用している女性教員を対象に使用を開始しており、そこで得られたデータは、ダイバーシティ担当 URA とダイバーシティ研究環境研究所コーディネーターが行う研究支援に活用していく。

(12) 女性研究者支援メンター制度

女性研究者支援メンター制度の活性化を図るため、研究支援員を配置している女性教員（准教授以下・テニュアトラック教員を除く）を対象に、メンターを配置している。

また、研究支援員を配置しておらず、メンターがいない女性教員にも、研究生活で直面するいろいろな悩みや不安を誰かに気軽に相談できる場を提供する目的でメンターカフェを開催した（女性研究者支援センターと共催）。

平成29年10月19日 メンターカフェ 【中百舌鳥キャンパス】 8名参加

12月25日 メンターカフェ 【羽曳野キャンパス】 8名参加



メンターカフェの様子

メンターカフェ
メンターとメンティの交流の場

女性研究者支援事業では、研究生活で直面するいろいろな悩みや不安を誰かに気軽に相談できる場を提供する目的でメンターカフェを開催しています。メンターと交流できる機会ですので、お気軽にご参加ください。

2017.10.19【木】
15:00-17:00

※途中入退室自由です※
大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
A6棟 3階 ラーニングコモンズ

メンター制度に
関心がある
リソースなし
と悩んでいる
交流の場を
探している

他の研究者と
50分～1時間
1対1で話し
合っている

メンター候補に
希望する方
はご参加ください
交流会を開催し
ていただきます。

対象
本人が希望
する方
はご参加
ください
交流会を開催
していただきます。

対象
本学教職員・大学院生・学域生

おQRコードアクセスまたは
下記メールアドレスへ
@gmail.com 宛に「メンター
カフェ」を明記の上、
お申し込みください。
@gmail.com
support@baa.osaka-fu.ac.jp

【主催】 女性研究者支援センター
大阪府立大学
女性研究者支援センター
TEL) 072-254-9850 (ex 5027) ext.300-174
E-mail) support@baa.osaka-fu.ac.jp
URL) http://pms.osaka-fu.ac.jp/

【共催】
大阪府立大学
ダイバーシティ研究環境研究所

(13) アンケートの実施

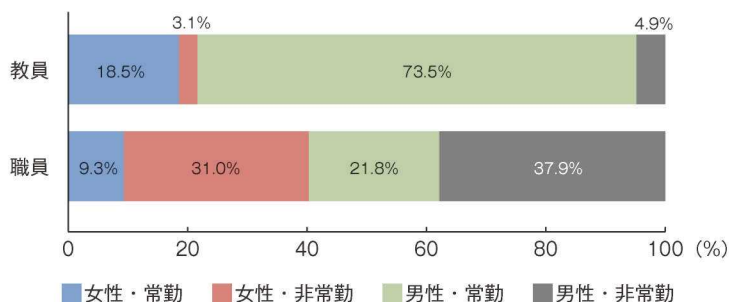
「大学教職員ワーク・ライフ・バランス調査」アンケート調査 報告（速報）

1) 回答者数

配布数 1,192、回答数 607（回答率50.1%）

●回答者内訳：教員255、職員338、研究員3、非常勤講師7、無回答4

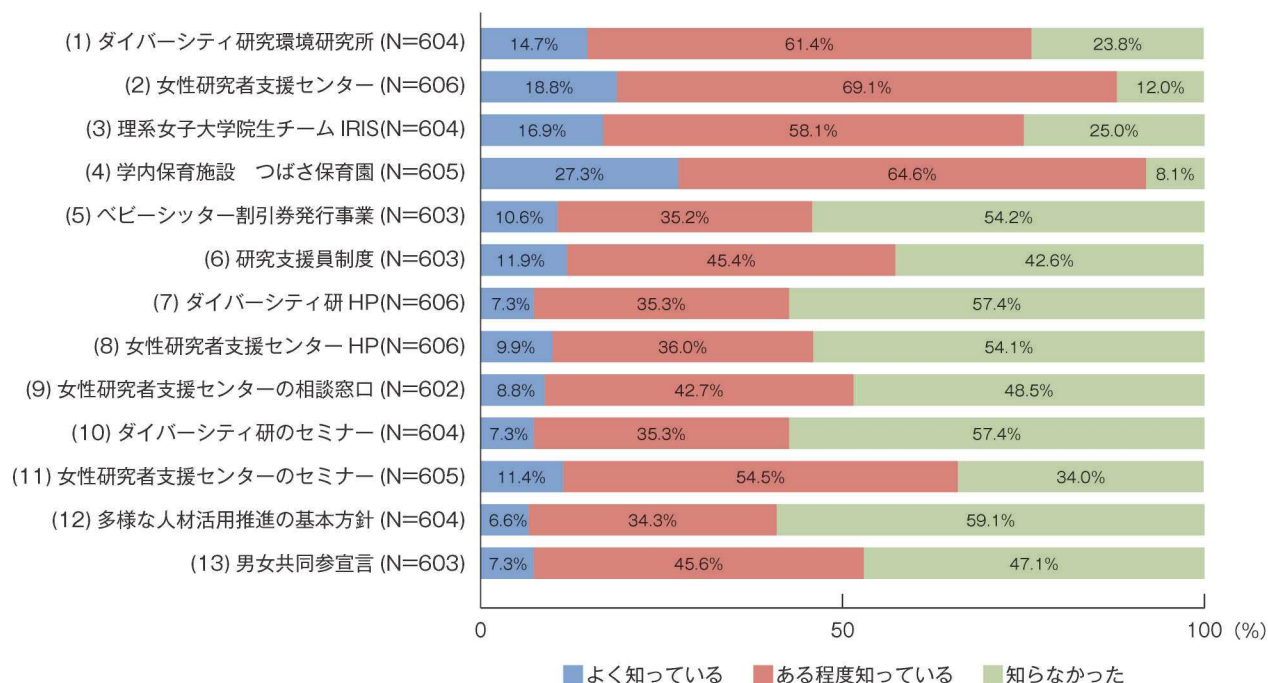
回答者プロフィール（教職員）



回答者のうち教職員の内訳をみていくと、教員は73.5%を男性・常勤が占めており、次いで女性・常勤が18.5%となっている。職員は男女とも、非常勤からの回答が3割を超えている。

2) 大阪府立大学の女性研究者支援事業の認知度

女性研究者支援の事務局である「(1) ダイバーシティ研」と「(2) 女性研究者支援センター」、および「(3) IRIS」と「(4) つばさ保育園」の認知度は、「よく知っている」「ある程度知っている」を合わせると75%を超えて高い。特につばさ保育園の認知度は91.9%と、回答者のうち、ほとんどの教職員が知っている。次に(5)～(11)の事業については、いずれも約半数が認知し、特に「(6) 研究支援員制度」と「(11) 女性研究者支援センターのセミナー」は半数を超えていて高い。このうち研究支援員制度は、利用対象者が育児・介護中の常勤教員に限定されるにもかかわらず、認知度が57.0%もあるということは、この制度への注目度の高さを物語っている。最後に、女性研究者支援事業の基盤となる「(12) 多様な人材活用の基本方針」と「(13) 男女共同参画宣言」は、前述の事務局と比較して認知度が低い。そのため、今後は学内で広く認知されるよう、積極的に周知していく必要がある。



※その他の項目の分析結果については、ダイバーシティ研ホームページで報告する。

(14) 中間総括シンポジウムの開催

ダイバーシティ中間総括シンポジウム

「凛として、しなやかに、たくましく～大阪府立大学のダイバーシティを考える～」

文部科学省科学技術人材育成費助成事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特種型)」

大阪府立大学
ダイバーシティ研究環境研究所
Research Center for the Working Relationship

ダイバーシティ 中間総括シンポジウム
凛として、しなやかに、たくましく
～大阪府立大学のダイバーシティを考える～

当日スケジュール

13:30 ポスター発表、ブース展示
●主題によるポスター展示
●ダイバーシティ推進に関わっている部門によるポスター展示

14:00 辻理事長・学長あいさつ

14:05 日本の科学技術における女性活躍推進について
山崎 藤子(よさこゑ オペラ)
山崎藤子プログラムオフィサー
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

14:20 大阪府立大学の事業成果と今後の課題
高橋 真実
大阪府立大学 ダイバーシティ研究環境研究所長

14:35 基調講演「ダイバーシティの重要性」
月野 真子
人間福祉学部のダイバーシティ・コグニティブ・発達性・認知性・個性・性差研究センター 研究員

15:25 休憩(講演者への質疑を募る)

15:35 パネルディスカッション:これからの課題について
山崎藤子プログラムオフィサー、月野真子氏を交えて
高橋真実教授(基調講演者)と学芸員
山田夕香教授(生命環境科学研究科)、石田洋輔准教授(総合企画課)

16:30 各部署の取り組み(即席長の想い)
工学研究科、生命環境科学研究科、理学研究科、経済学研究科、人間社会システム科学研究科、国際学術研究科、総合イノベーション・イノベーション研究科、高等教育推進機構の部長

16:50 実行委員紹介

16:55 石井理事・副学長あいさつ

17:00 ポスター発表、ブース展示

17:30 終了

平成29年
11月17日(金)
13:30～17:30 **参加費無料**

対象および定員
一般(女性活躍推進に興味のある方)、大阪府立大学教職員、研究員、学生、ほか関係者 100名

場所
大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
C1棟 学術交流会館 多目的ホール

（参加申込について）
※当日参加もできますが、資料準備の関係から、できるだけ事前にお申し込みください。

問い合わせ・申込先
大阪府立大学
ダイバーシティ研究環境研究所
〒599-8531 堺市中区学園1-1
(中百舌鳥キャンパスB16棟)
TEL (072) 254-9649
FAX (072) 254-9656
E-mail diversity@ao.osakafu-u.ac.jp

日 時 2017年11月17日(金) 13:30～17:30

場 所 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス 学術交流会館多目的ホール

参加者数 125名(学外28名、学内 教職員93名、院生 4名)

●実行委員会について

全学的な支援体制をさらに発展させることを目指して、各部署に協力を依頼し、2017年6月に教職員10名で組織する「中間総括シンポジウム実行委員会」を立ち上げた。実行委員会では、シンポジウムが学内外にアピールできるものになるよう、テーマや講師の選定、プログラムの立案を行い、開催当日の運営にも関わった。ダイバーシティや女性支援に関わる部署によるポスター展示や、大学生協による府大グッズ販売なども、実行委員からの提案で実現したものである。また学内外への広報なども、実行委員が協力して行った。

中間総括シンポジウム実行委員会 委員名簿 ※委員長・副委員長以外は50音順

	氏名	部局(職位)
委員長	真嶋由貴恵	ダイバーシティ研究環境研究所長、人間システム科学研究科(教授)
副委員長	三宅 真実	女性研究者事業運営委員、生命環境科学研究科(教授)
	二村真理江	教育推進課(主事)
	糸賀 康人	研究推進課(主事)
	大関 知子	女性研究者事業運営委員、総合リハビリテーション学研究科(教授)
	小笠原紀行	女性研究者事業運営委員、工学研究科(助教)
	皆藤 昌利	理事長室広報課(主査)
	出口 真也	人事課(主事)
	森澤 和子	女性研究者支援センター長、工学研究科(教授)
	山口 夕	女性研究者事業運営委員、生命環境科学研究科(准教授)

● 当日の様子

本シンポジウムでは、本学における女性活躍やダイバーシティを全学で推進していることと、今後の取組の方向性を確認することができた。

まず、真嶋由貴恵ダイバーシティ研究環境研究所長から、本学の事業成果と今後の課題について報告した後、キャリアン代表取締役の河野真理子社長から、ダイバーシティの重要性について企業の実例も交えて講演していただいた。

パネルディスカッションでは、前半の講演者に本学教職員も加わり、女性活躍推進やダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスなど、いくつかのテーマを設けてパネラーから意見をもらおうと同時に、参加者にもクリッカーで答えてもらう形で進めた。クリッカーを用いたことで、参加者から「ディスカッションに自分も参加している実感があつた」と好評であった。

最後に「部局長の想い」と題して、8部局（工学・生命環境科学・理学系・経済学・人間社会システム科学・看護学・総合リハビリテーション学研究科と、高等教育推進機構）の長が登場し、取組状況と今後の課題について発表した。参加者から「大阪府立大学が大学全体として、女性研究者支援、研究力向上の必要性・重要性の意識が根付いていると感じた」との感想があつた。



河野 真理子氏



会場風景



各部局の取り組み



掲示物

(15) ロゴデザインの募集

大阪府立大学 女性研究者支援プログラムのロゴデザインを在学生、卒業生、教職員ならびに一般の方を対象に募集したところ、14点の応募があった。ダイバーシティ中間総括シンポジウム実行委員会にて最終候補作品を5点に絞った上で、「ダイバーシティ中間総括シンポジウム」(2017年11月17日開催)にて来場者による投票を行い、最優秀賞1点を選定した。

入選者

関 洋江 様(大阪府立大学 教育推進課 職員)

入選者への表彰式は2018年1月11日(木)に行い、辻理事長より表彰状と副賞を贈呈した。



〈ロゴデザインのコンセプト〉

大学の象徴の白鷺と星で、大学のシンボルとして存在し続けて欲しいという思いを表現している。下の曲線は、川の流れるように弛まずという意味である。



真嶋ダイバーシティ研究環境研究所長、辻理事長、関 様、森澤女性研究者支援センター長

(16) ダイバーシティ研究環境研究所の広報活動

ロールモデル集の作成

大阪府立大学は「地（知）の拠点」として、研究成果を広く社会に還元し、地域や産業界の発展に貢献するため、産学官連携活動にも力を入れている。ダイバーシティ研究環境研究所では、本学において様々な分野で活躍する女性研究者たちの研究分野を紹介した「大阪府立大学 ロールモデル集：研究紹介」を作成した。

本ロールモデル集では、各研究科から8名の女性研究者の方々にインタビューをし、研究の概要とその魅力、独自性や今後の展望について、また趣味や休日の過ごし方などのオフ時間の過ごし方についても語っていただいた。さらに、本学の全女性研究者をその専門分野や研究キーワードによって13つの分野に分けて一覧にして掲載した。



Members 子ども・子育て	
伊藤 嘉余子 教授 人間性システム科学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	山野 則子 教授 人間性システム科学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
上野 昌江 教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	中山 美由紀 教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
橋本野 裕美 教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	濃邊 香織 教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
大川 聡子 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	北川 未幾子 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
中嶋 有加里 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	長田 暁子 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)

岡崎 裕子 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	古山 美穂 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
小川 由紀子 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	立山 清美 准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
中岡 和代 助教 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	若林 身歌 助教 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)
髙 真理子 特任准教授 看護学研究科 専門領域: 保健学(ワーク) 学術的業績: 学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)、学術的業績、学術的業績(学術的業績)	

(17) 女性研究者 研究紹介セミナー&女性研究者・大学院生交流会

大阪府立大学の女性研究者が行っている、おもしろい・すごい研究を紹介した。

【女性研究者 研究紹介セミナー 「この先生のここがすごい！」】

日時：2018年2月9日（金）15：00～17：00

場所：大阪府立大学 I-site なんば 2F C3

参加者数：9名

【セミナー講演者】

真嶋 由貴恵 教授（人間社会システム科学研究科、ダイバーシティ研究環境研究所長）

「先端技術で変える、変えたいヘルスケア！」

森澤 和子 教授（工学研究科、女性研究者支援センター長）

「最適化技術でめざす優しいものづくり」

大阪府立大学 女性研究者 研究紹介セミナー
この先生のここがすごい！

大阪府立大学で、おもしろい・すごい研究をしている女性研究者、そんな先生たちの研究を紹介します！
参加費には「ロールモデル集」をプレゼント！

真嶋 由貴恵
大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科・教授 / ダイバーシティ研究環境研究所長
先端技術で変える、変えたいヘルスケア！

森澤 和子
大阪府立大学大学院 工学研究科・教授 / 女性研究者支援センター長
最適化技術でめざす優しいものづくり

日時 2018年2月9日(金) 15:00-17:00
場所 大阪府立大学 I-siteなんば 2F C3
対象 どなたでも (申込不要・参加無料)

<主催・お問い合わせ>
大阪府立大学 ダイバーシティ研究環境研究所
〒595-8585 中百舌鳥キャンパス(1108棟)
メール diversity@ao.osakafu-u.ac.jp
TEL (072) 254-9649 (平日9:30-17:00)

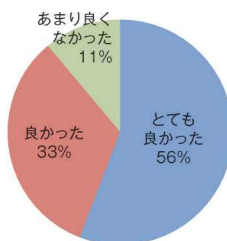
参加者アンケート結果

コメント

●男性とは違う、女性独特の目線や目のつけどころはすごくおもしろいので、こういったセミナーをもっと開催し「女性研究者」が世間の目にふれる機会を増やし、若い世代の女性たちが少しでも興味を持ち研究者が増えればいいと思った。

●先生方がキャリアを築く上で色々悩み、苦労されてきたと思うのですが、それをどのように乗り越えたのかというようなお話もありました。森澤先生のスケジュールのお話しは、是非、職員研修でもやっていただきたいです。

●腸活やアンチエイジング、遺伝子組み換え等のより身近に感じられそうなお話を聞いてみたいです。看護師さんをどのようにトレーニングするのかは、こういうアプローチが研究テーマとしてあるんだなあと目からウロコ感がありました。



真嶋 由貴恵 教授

森澤 和子 教授



女性研究者 研究紹介セミナー風景

【女性研究者・大学院生交流会】

セミナー終了後は女性大学院生を対象に、研究やライフワークバランスのことなど、第一線で活躍する女性研究者と気軽に話しできる場として交流会を実施した。

日時：2018年2月9日（金）17：30～18：30

場所：大阪府立大学 I-site なんば 2F C3

参加者数：1名

大阪府立大学
女性研究者・大学院生交流会

女性大学院生のみならず、研究やワーク・ライフ・バランスのことなど、女性研究者と気軽に話しませんか？
参加費には「ロールモデル集」をプレゼント！

<参加予定の女性研究者>

真嶋 由貴恵
大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科・教授 / ダイバーシティ研究環境研究所長

森澤 和子
大阪府立大学大学院 工学研究科・教授 / 女性研究者支援センター長

日時 2018年2月9日(金) 17:30-18:30
場所 大阪府立大学 I-siteなんば 2F C3
対象 大阪府立大学の女性大学院生(申込不要・参加無料)

<主催・お問い合わせ>
大阪府立大学
ダイバーシティ研究環境研究所
〒595-8585 中百舌鳥キャンパス(1108棟) メール diversity@ao.osakafu-u.ac.jp
TEL (072) 254-9649 (平日9:30-17:00)

II. スキルアップ支援プログラム

事業一覧（時系列）

平成29年	6月28日	外部資金獲得セミナー（中百舌鳥・りんくう） 外部資金獲得セミナー・個人校閲
	7月10日・24日	外部資金獲得セミナー・個人校閲
	7月25日	英語論文セミナー
	7月25日～12月27日	英語論文セミナー・個別英文校正実施
	8月4日	外部資金獲得セミナー（羽曳野）
	8月4日・7日	外部資金獲得セミナー・個人校閲
	9月28日	マネジメント・セミナー ※学生課・キャリアサポート室と共催
平成30年	2月28日	プレゼンテーション力向上セミナー（中百舌鳥）
	3月15日	プレゼンテーション力向上セミナー（りんくう）
	3月19日	プレゼンテーション力向上セミナー（羽曳野）

1 スキルアップ支援プログラムの目的と位置づけ

女性研究者を対象としたスキル向上に資するため、1クール1年半で行う（下記表参照）。新規採用の若手女性研究者は必修とし、5期（平成32年度終了分）まで実施する予定。平成29年度は3期目を実施した。

	平成29年度（3年度目）		平成30年度（4年度目）
2期目	平成29年5月～平成30年3月 RESPECT 実施		
3期目	平成29年6月～平成30年3月 スキルアップ・セミナー	平成30年3月 RESPECT 公開審査会	平成30年5月～平成31年3月 RESPECT 実施

2 セミナーの実施

(1) 外部資金獲得セミナー

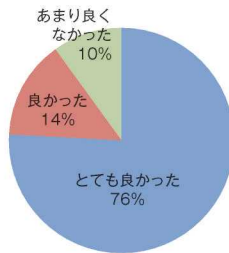
科研費など外部資金獲得のためのスキルアップ・セミナーを開催し、希望者には研究計画書の個人校閲を実施した。

	開催日	開催キャンパス	参加人数
セミナー	平成29年6月28日(水)・ 8月4日(金)	中百舌鳥・羽曳野・ りんくう	26名
個人校閲	平成29年6月28日(水)・ 7月10日(月)・24日(月)・ 8月3日(木)	中百舌鳥・羽曳野	8名
	平成29年8月4日(金)・ 7日(月)	羽曳野	7名

参加者アンケート結果

コメント

- 科研費の対策としては少し早い時期かと思いましたが、残りの時間でやるべきことが明確になり、非常によかったです。
- 科研費に関する本は読んでいますが、お話を聞くとまた別の視点から学べて良かったです。
- 講師がどんな人なのか、どの分野で活躍されているのかなど自己紹介を兼ねた内容も聞きたかったです。
- 文系の研究者のためのゼミナールなどがあれば是非参加したいと思います。



(2) 英語論文作成セミナー

研究成果を海外へ発信するための英語論文執筆のスキルアップ・セミナーを開催し、希望者には個別で英語論文の校正支援を実施した。

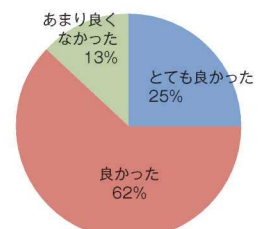
	開催日	開催キャンパス	参加人数
セミナー	平成29年7月25日(火)	中百舌鳥 (羽曳野・りんくう中継)	10名
英文校正	平成29年7月25日(火)～ 平成29年12月末	—	4名



参加者アンケート結果

コメント

- 英語論文を作成する上でよく使うフレーズや看護・保健に特化した単語、フレーズなどが知れると嬉しいです。
- 簡単なアブストラクトを作成し、成果物を研究紹介などに使用できるとよい。
- やはり中継では、学びが半減するように感じました。



(3) プレゼンテーション力向上セミナー

学会などの研究発表や授業実施にに欠かせないプレゼンテーション力の向上のためのスキルアップ・セミナーを開催した。

開催日	開催キャンパス	参加人数
平成30年2月28日(水)・ 3月15日(木)・19日(月)	中百舌鳥・羽曳野・りんくう	15名



参加者アンケート結果

コメント

- とてもよかったです。分かりやすかったし、さすが話しが上手で2時間があっという間でした。
- 聞くだけではなく、机合わせしている人と話しあったりする機会があり楽しかったです。
- 院生として参加させて頂きました。今後もプレゼンの他ディベートや学会発表、論文(英語)の書き方など実践につながる企画を希望します。

(4) マネジメントセミナー

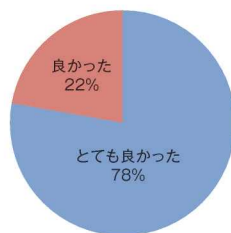
研究チームや研究室・部局を運営するためのマネジメント力をつけるスキルアップ・セミナーを開催した。

開催日	開催キャンパス	参加人数
平成29年9月28日(木)	中百舌鳥 (羽曳野、りんくう中継)	33名

参加者アンケート結果

コメント

- 納得する部分が多くあり、これから大学の改革を進める上で参考になりました。今後は、大学関係でダイバーシティ改革を進める前に講演に来ていただけたらうれしいです。
- 大企業の事例を交えたお話しで事例の結果等イメージしやすかったです。
- 参加者動員方法の再考。良い企画なものもっていない。



3 e-Learning の活用

授業や実習などで、スキルアップ・セミナー当日に参加できない教員へのフォロー体制を整えるため、下記の講演・セミナーをe-Learningで受講できるようにした。動画作成およびe-Learningシステムについては、大阪府立大学EDGEプログラムの協力を得た。

e-Learning化した講演・セミナー

- 外部資金獲得セミナー(6/28開催)
- マネジメントセミナー(9/28開催)

III. RESPECT (研究実践力強化プログラム)

事業一覧 (時系列)

平成29年	5月1日	RESPECT 研究費支給開始 (4件)
	12月13日~2月28日	平成30年度 RESPECT 募集
平成30年	3月27日	平成30年度 RESPECT 審査会開催

1 概要

(1) 目的

女性研究リーダーの育成のため、「II. スキルアップ支援プログラム」の上位研修プログラムとして実施する。本学の女性研究者に競争的インセンティブとして各種支援を行うことによって、女性研究者が研究グループのリーダーとなる活動を促進することを目的とする。

(2) 応募対象者

以下の条件をすべて満たしている者。

- ①大阪府立大学の女性の専任教員（任期付教員を含む。）で、下記の区分に基づいた研究グループの研究代表者。
- ②平成29年6月~平成30年3月にダイバーシティ研究環境研究所が開催したスキルアップ・セミナーに、2回以上参加していること。

※今回採択された場合は、次回以降のRESPECTには申請できない。

2 平成29年度分 (第2期)

(1) 募集

1) 研究費及び採択予定件数

下記のうち、申請者が当てはまる区分の中から1つを選択して申請する。

区分	対象	研究費	採択予定件数	資金
①復帰支援	ライフイベント中の女性研究者	平成26年4月1日から現在までに、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した者 最大200万円/件 <使用用途> 研究支援員の雇用、研究に関わる経費（物品購入、英文校正費、国内旅費など）	2件程度	補助金
②女性研究者支援	上記以外の女性研究者	最大100万円/件 <使用用途> 研究支援員の雇用、研究に関わる経費（物品購入、英文校正費、国内旅費など）	2件程度	自主経費

2) 研究期間

審査決定後から平成30年3月31日まで。

3) 申請の有資格者 (スキルアップセミナーを2回以上受講した者)

19名

(2) RESPECT 審査会（学内公開）

平成29年 3月30日（木）13：30～15：50
 中百舌鳥キャンパス（B3棟 117講義室）

<プログラム>

- 13：30～13：35 石井実 理事・副学長あいさつ
- 13：35～13：40 RESPECT の趣旨と今日のスケジュール説明
- 13：40～15：45 申請者プレゼンテーション（8件）
- 15：45～15：50 真嶋由貴恵
ダイバーシティ研究環境研究所長あいさつ



審査会の様子



審査委員

石井 実 審査委員長
 (理事・副学長)

(3) 審査結果

●申請者 8名

(工学研究科 2名、生命環境科学研究科 1名、理学系研究科 2名、人間社会システム科学研究科 2名、看護学研究科 1名)

申請区分	対 象	申請件数	採択件数	採択者
①復帰支援	ライフイベント中の女性研究者で、平成26年4月1日から現在までに、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断したもの	2件	2件	・高 知恵 助教（看護学研究科） ※1名辞退
②女性研究者支援	上記以外の女性研究者	6件	3件	・牧浦 理恵 准教授（工学研究科） ・山口 夕 准教授（生命環境科学研究科） ・恩田 真紀 准教授（理学系研究科）



牧浦 理恵 准教授
 (工学研究科)



山口 夕 准教授
 (生命環境科学研究科)



恩田 真紀 准教授
 (理学系研究科)



高 知恵 助教
 (看護学研究科)

RESPECT 採択者の声

- RESPECT の研究費は主に、クロマトグラフィ担体や試薬等の消耗品の購入に充てました。私のプロジェクトの遂行には高純度の蛋白質を大量に得ることが不可欠で、これを効率良く進めるには、高価ではあるが高性能の担体が必要です。研究費の50%以上をこれに充てることにより、プロジェクトが大きく前進しました。
 (理学系研究科 准教授)
- 学外の企業や研究機関との共同研究において、自身の専門分野を生かした研究を追加することができた。特に共同研究の主体が機械分野のハード面であったため、RESPECT でのサポートにより生物分野での経験を活かしソフト面でのリーダーシップを発揮することができ、総合的な成果に貢献できそうである。
 (生命環境科学研究科 准教授)
- 自身の研究課題を明らかにするためにアンケートとインタビューの両方の調査を行いました。そこで RESPECT 研究費で研究支援員を雇用し、データ入力やグラフ作成などをしていただきました。またジャーナル投稿に向けた英文校正やホームページ作成などにも研究費を利用し、自分の研究成果の公表にも役立ちました。
 (看護学研究科 助教)

3 平成30年度分（第3期）

(1) 募集

1) 研究費及び採択予定件数

対 象	研究費	採択予定件数	資金
大阪府立大学の女性の専任教員 (任期付き教員を含む。)	最大100万円/件 <使用用途> 研究支援員の雇用、研究に関わる経費 (物品購入、英文校正費、国内旅費など)	2件程度	自主経費

2) 研究期間

平成30年 5月1日から平成31年 3月31日まで。

3) 申請の有資格者数

9名

(2) RESPECT 審査会（学内公開）

平成30年 3月27日（火）13：30～
 中百舌鳥キャンパス（B3棟 117講義室）

その他

事業一覧 (時系列)

平成29年	4月1日	ダイバーシティ研究環境研究所コーディネーターの職位を「教育支援員」(非常勤職員)から「特認准教授」に変更
	5月9日	大阪府立大学 現代システム科学域講義「情報とサステナビリティ」にて事業説明
	5月29日	日経ウーマノミクス・フォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」に出展
	7月18日	特別シンポジウム「SOGI(性的指向・性自認)の多様性と学生支援について」開催(学生課、人事課と共催) 【中百舌鳥キャンパス、羽曳野・りんくうキャンパス・府大高専(中継)】
	9月1日・2日	ドーンdeキラリフェスティバル(大阪府・OSAKA女性活躍推進会議主催)に「IRIS 理系女に聞く!理系のミリオク」を出展(女性研究者支援センター、南大阪大学コンソーシアムと共催)
	9月20日~11月30日	女性研究者支援事業ロゴデザイン公募
	9月20日	大阪大学シンポジウム「ロールモデルの多様化と理工系女性研究者の育成」に参加
	10月1日~10月31日	教職員のワーク・ライフ・バランスの現状とニーズについてのアンケート調査実施
	10月14日	男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」に参加
	11月6日	高知大学との情報交換(本学にて)
	11月17日	大阪大学との情報交換(本学にて)
	11月17日~3月31日	ロールモデル集配布(配布先:本事業関係者、中間総括シンポジウムや各種セミナーの参加者、報道機関・企業など)
12月1日~3月31日	教職員のワーク・ライフ・バランスの現状とニーズについてのインタビュー調査実施	
12月8日	長崎大学シンポジウム「多様性の尊重 ダイバーシティと大学の未来」に参加	
平成30年	2月5日	大阪大学シンポジウム「ダイバーシティが拓く、関西の未来」に参加
	2月9日	女性研究者研究紹介セミナーと女性研究者・大学院生交流会を開催
	2月20日	大阪市立大学 ダイバーシティ研究環境実現キックオフシンポジウム「南近畿からの発信:女性研究者の地平を拓く、未来を創る」に参加
	3月2日	文科省 合同シンポジウム「研究力強化に向けた女性研究者の活躍促進」に参加
	3月6日	女性研究者交流会の開催
	3月14日	大阪市立大学イノベーションフェア「イノベーション 創造の新しい形~女性研究者が切り拓く未来~」にてポスター発表
	3月19日	IRIS 活動報告会にてIRIS・OGとの交流企画

事業ごとのまとめ

(1) 異分野研究領域を融合した研究の促進

参加機関の女性研究者および職員が交流を深め、ダイバーシティの取組みについて理解し、共同研究など連携推進を図る目的で、大阪府立環境農林水産総合研究所と大阪産業技術研究所の技術者・職員と、本学の女性教員との交流会を開催した。

【女性研究者・職員交流会】

日 時：2018年3月6日（火）13:00～16:30

場 所：大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス B4棟K102

参加者数：参加者名 15名（学内9名、学外6名）

<プログラム>

- 13:00～13:05 1. 開会あいさつ
13:05～13:30 2. 大阪府立大学の女性研究者支援事業 紹介
13:30～14:30 3. ポスター発表（1分間プレゼン）
（移動15分間）4. 施設見学
14:45～16:00 <コース1> 植物工場
（移動15分間） ↓
16:15～16:30 つばさ保育園
14:45～15:45 <コース2> 生産技術センター
（移動15分間） ↓
16:00～16:15 つばさ保育園



女性研究者・職員交流会



ポスター発表



施設見学（生産技術センター）

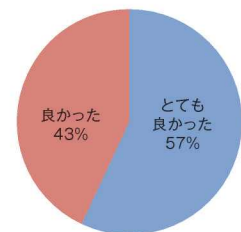


施設見学（植物工場）

参加者アンケート結果

コメント

- 女性研究者・職員に向けた多様な取り組みを見ることができて良かった。プレゼンや研究能力開発に向けたセミナーへの参加をしてみたいと思った。
- （必ずしも女性限定ではなく）若手、中堅の研究交流ができればありがたい。
- 毎回参加させて頂いています。前回（H28年冬）は人数も多くて他分野の方ともできたのですが、今回は参加者が少なく残念です。「研究者」としての交流と「女性」とが混在していてもったいないと感じます。毎回、交流会で同じ内容になっているので、テーマを決めて話しをするなど違う形で実際の所属機関の改革につなげる活動になればと思います。（研究者は男性でも交流の場としてはとてもよいので限定するのがもったいない。女性に特化するならもっと個人活動の研究部分を除いた方がお互いの知りたいことを知れる。）



- その他、女性研究者・大学院生交流会（2/9、p.21参照、再掲）でも本学教員と大学院生の交流を行った。

(2) 理系女子人材の発掘とキャリア支援

- 1) 1月26日発行の大阪府立大学校友会（同窓会）のメーリングリストを通して、理系女性卒業生にダイバーシティ研究環境研究所の設立を周知し、学位取得など、研究者としてのキャリア支援や交流を呼びかけた。また、そのための相談窓口をダイバーシティURA担当とした。
- 2) 理系女子院生チームIRISのOG人材とのネットワークを活用して、下記のとおり、現役のIRISや本学教員・大学院生などとの交流を行った。

年	月 日	内 容
平成29年	9月1日・2日	OSAKA 女性活躍推進ドーンdeキラリフェスティバルイベント 「理系女に聞く！理系のミリョク～理系のミになる話～」※下記参照
平成30年	3月19日	IRIS 活動報告会にてIRIS・OGとの交流企画

【OSAKA 女性活躍推進ドーンdeキラリフェスティバル 「理系女に聞く！理系のミリョク～理系のミになる話～」】

女子中高生を対象に、現役IRIS（理系女子大学院生）とIRIS-OGがロールモデルとして講演し、理系の魅力を紹介した。その後、グループトークを行って、女子中高生からの質問にIRISとIRIS-OGが答えた。また、この企画を一緒に進めることによって、IRISとIRIS-OGも交流することができた。

日時：2017年 9月 2日（土） 14時～16時

場所：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）4階 大会議室

参加者数：31名（中高生16名、保護者等15名）

講師：IRIS-OG 2名 IRIS第7期生 4名



グループトーク



IRISとIRIS-OG



IRIS-OGによる講演

(3) 公立大学としての地域連携力の活用：女性研究者交流会の開催

3月6日、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにて大阪府立環境農林水産総合研究所と大阪産業技術研究所の女性技術者・職員と、本学の女性教員との交流会を開催した。（P28（1）異分野研究領域を融合した研究の促進の記事参照、再掲）

(4) 他機関との情報交換

年	月 日	相手機関	実施場所	主な内容
平成29年	11月6日(月)	高知大学	大阪府立大学	女性上位職および女性研究者を増加させるための取組
	11月17日(金)	大阪大学	大阪府立大学	IRISの組織化について

(5) 他機関主催のセミナー等への参加

年	月 日	セミナー・シンポジウム名	主 催
平成29年	5月29日	日経ウーマノミクス・フォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」※下記参照	日本経済新聞
	9月1日・2日	ドーンdeキラリフェスティバルに「IRIS 理系女に聞く！理系のミリオク」を出展	大阪府・OSAKA 女性活躍推進会議主催/女性研究者支援センター、南大阪大学コンソーシアムと共催
	9月20日	大阪大学シンポジウム「ロールモデルの多様化と理工系女性研究者の育成」に参加	大阪大学
	10月14日	男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」	男女共同参画学協会連絡会
平成30年	2月5日	大阪大学シンポジウム「ダイバーシティが拓く、関西の未来」	大阪大学
	2月19日	大阪市立大学「エイミー・ウェント先生の“工学”女子学生のためのエンカレッジ教室」協力	大阪市立大学
	2月20日	大阪市立大学 ダイバーシティ研究環境実現キックオフシンポジウム「南近畿からの発信：女性研究者の地平を拓く、未来を創る」	大阪市立大学
	3月2日	文科省 合同シンポジウム「研究力強化に向けた女性研究者の活躍促進」	文科省
	3月14日	平成29年度 産学官連携ウィメンズイノベーションフェア「イノベーション 創造の新しい形～女性研究者が切り拓く未来～」	大阪市立大学

【日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来～国内女性研究者初 ノーベル賞受賞者育成を目指して～】

5月29日に日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来～国内女性研究者初 ノーベル賞受賞者育成を目指して～」が開催され、本学からは牧浦理恵准教授（工学研究科）がパネリストとして登壇した。

関西の国公立および私立の計10大学が連携し、開催されたこのフォーラムでは、女性研究者がライフイベントをキャリアアップのための新たなチャンスととらえ、研究生活を継続するために必要なサポート体制や、女性自身の意識改革の必要性などについて議論がなされた。フォーラム終了後には、講師、参加大学教職員、学生、後援団体、主催者招待者が参加する交流会の中で、フォーラムの感想や将来の夢などについてスピーチを行い、本学からもIRISメンバー1名がスピーチをした。



日時：2017年5月29日（月）16時～19時30分
場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）12階特別会議場

<プログラム>

- 16:00～17:00 参加大学のポスターセッション
- 17:00～17:30 基調講演 鈴木みゆき氏（シスコシステムズ社長）
「ワークスタイルの多様化が人材を育てる」
- 17:30～18:30 企業と大学の女性研究者によるパネル討論
「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」
- 18:40～19:30 関係者交流会



パネルディスカッション



ポスターセッション



IRISのスピーチ

(6) コーディネーターのキャリアパスへの配慮

ダイバーシティ研究環境研究所のコーディネーターを、週1日、博士研究員として自主経費で雇用した。

大阪府立大学 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業
平成29年度 事業報告書

平成30年3月発行

発行 大阪府立大学 研究推進機構 ダイバーシティ研究環境研究所
連絡先 〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町1-1
大阪府立大学中百舌鳥キャンパス B16棟
TEL (072) 254-9649
E-mail diversity@ao.osakafu-u.ac.jp
URL <http://diversity.21c.osakafu-u.ac.jp>



大阪府立大学

ダイバーシティ研究環境研究所

Research Center for the Diversity Research Environment

